ふるさと研究ニュース

2023年 夏 号 第29号
文 化 財 保 護 課
ふるさと研究グループ

「ふるさと研究活動」は、ふるさと所沢の自然・歴史・芸術・文化等に関する資料を収集、調査・研究をして、その成果を展示・講座等の事業を通じて、広く市民に伝えていくことを目的としています。この「ふるさと研究ニュース」は、市民のみなさんに、所沢のことを知っていただける機会や情報をおとどけする情報紙です。所沢をもっと知りたい方、ぜひご活用ください。

夏季企画展 関東大震災百年

会期：令和5年8月15日(火)～9月24日(日) 午前9時～午後4時30分
※月・祝休 (9月18日(月)は休み・9月23日(土)は開催)

会場：生涯学習推進センター 3階 企画展示室、常設展示室

大正12年9月1日午前11時58分。今から百年前、関東地方を未曾有の大地震が襲いました。

その時、所沢に住んでいた人々は、どのように捉え、対処し、暮らしは、どう変わったのでしょうか。

当時の資料から、所沢の人々と震災とのかかわりを探ります。

今回は、震災についての調査に取り組んでいる、栄東中学・高等学校理科研究部(さいたま市)の展示協力もあります。

関連講座 「関東大震災と所沢」

日時：9月16日(土) 午前10時～12時
会場：生涯学習推進センター 学習室201
内容：栄東中学・高等学校理科研究部による研究発表と市民との対話
定員：先着60人 無料
申込：9月2日(土) 午前9時から電話で受付
(午前9時から午後5時まで)
申込先・問い合わせ：
所沢市文化財保護課 電話 04-2991－0308
※16日は、同研究部生徒、OBによる展示解説あり
午後2時～、3時～ 各回30分程度 (事前申込不要)

市民学芸員による展示解説

※事前申込不要
毎週土日 午前11時～午後3時

常設展示室 臨時休室のお知らせ

企画展示の準備及び片付けのため、下記の期間は臨時休室となります。

休室期間：
令和5年8月1日(火)～8月14日(月)
令和5年9月25日(月)～10月6日(金)

※ 企画展示期間中は、企画展示会場として、開室しています。

秋田家住宅特別公開

日時：7月15日(土) 午前10時～午後4時
場所：所沢市寿町29－7 ※駐車場はありません
申込：事前申込不要 自由見学
問い合わせ：所沢市文化財保護課 電話 04-2991－0308

国登録有形文化財「秋田家住宅」

ところざわ星空フェスティバル 第10回

所沢市の教育活動における自然科学分野の事業として、子どもから高齢者まで幅広い世代の市民を対象に、星空や宇宙、ふるさと所沢の歴史などを身近に感じるための学習の場として、開催しています。

ご家族の皆様で、夏の日の午後の一時を楽しんでみませんか。

日時：７月２２日(土)午後２時～午後８時３０分（観望会終了時刻）
会場：生涯学習推進センター　※ 詳細は、「翔びたつひろば　7月号」をごらんください。

主なイベント

工作教室　本の中の星空　星空カフェ　プラネタリウム　星空の絵画展
電子楽器を作ろう　高校生サイエンス広場　昔のくらし体験コーナー
ダジック・アース体験　パントマイム教室　星空観望会（午後７時～8 時 30 分）

徳川家康が所沢に来た!?

〈ふるさと研究市民トピックvol.29〉

中世の所沢は鎌倉街道が縦断し、武蔵府中(府中市)からは、久米川(東村山市)を通り、所沢を経由して、入間川と堀兼(狭山市)に向かう二筋の道や川越に通じる道に入ることができました。このため所沢は、中世末期には、街道に沿って集落ができ宿のような様相を呈し、この街道は、近世に入ってからも使用されました。

慶長１５年(1610)１０月、駿府にあった徳川家康は、関東で鷹狩を実施するため道中宿付(旅行の予定表/徳川記念財団所蔵)を作成していましたが、それは１０月１４日に小田原(神奈川県小田原市)に宿泊し、中原(同平塚市)を経て１６日府中に着き、１７日に川越に到着、さらに忍(おし)・岩槻・岡部・浦和に鷹狩をしながら滞在し、１１月１１日に江戸に到着するというものでした。

家康が実際に小田原に到着したのは１０月２０日であり、江戸城に入ったのは、１１月１８日でしたが、この宿付では、府中から直接川越に赴いており、記載資料は残念ながら残っていませんが、おそらく鎌倉街道から所沢を北に進む計画で、家康は、所沢を通過したと思われます。

元和２年(1616)１月２１日、家康は、鷹狩に出かけたその夜、俄かに発病、一時は小康を保つことができましたが、４月１７日の巳刻(午前１０時頃)ついに駿府城において７５歳の生涯を閉じました。

家康は自らの死後においては、遺体は駿河国久能山に葬ること、一周忌が過ぎてから、下野日光山に小堂を建てて勧請することなどを指示していました。この遺命により、元和３年３月１５日、霊柩を金輿に乗せ、きらびやかに装った行列が久能山を後にしました。『台徳院殿御実紀』巻四十五によると、２１・２２日に武州府中、２３日に霊柩仙波(川越市)に着き、大堂に入ったと書かれています。(*1)

また、『東照宮御鎮座記』には、**「廿三日、山の端しらぬむさし野にわけいらせ給ふ(中略)　友におくれかへる雁のつばさ、ものゝあはれなりければ、僧正おもほえず霞の袖をぬらしけり　行くもかへるも雁の泪に、堀かねの井は右に見てとほる」**(*2)とあります。これに従えば、２３日に府中を出発した荘厳な行列も鎌倉街道を所沢から川越道にはいり、川越に向かったかと思われます。

また、これとは別に、家康の関東入国にあたり、三ケ島「玉蔵院」の由緒に、「**天正十八年七月二十八日、恐れながら東照宮様関東御入国のみぎり、相州小田原城より武州河越城へ通御(通行)の節、玉川出水につき、同州多摩郡山之根平村(八王子市)平傳太郎方に同日御逗留あそばせられ、翌二十九日(中略)　川越まで供奉仰せつけられ、その節途中におひて当山御尋ねにつき、右傳太郎頼朝公本社再建のことども委細に申し上げ候ところ、すなわち本社に御立ちより、御拝御小休の節、十九代の祖玉蔵坊御前へ召し出さる汲み立ての冷水召し上がられたく、よって上意恐れ多くも新水を献じ奉り、故に今に当山の地名新水と申し来たり**」(読み下し/当課)と記され、下安松「長源寺」の由緒にも「**天正十九辛卯年十一月領國巡覧ノ節當寺ニ休憩在ラセラレ寺領拾石且ツ境内不入ノ制等ヲ下賜アリ**」と伝えられています。(*3)

〈参考資料〉*1『台徳院殿御実紀』巻四十五（原書:国立公文書館所蔵/同館デジタルアーカイブで閲覧可能)/
『日光市史　中巻』日光市史編さん委員会 日光市 1979 年
*2『東照宮御鎮座記』(原書:国立公文書館所蔵/同館デジタルアーカイブで閲覧可能)/
『府中市史　上巻』府中市史編さん委員会 府中市 1979 年
*3『所沢市史　社寺』所沢市史編纂委員会 所沢市 1984 年

所沢市教育委員会 文化財保護課 ふるさと研究グループ
所沢市並木６丁目４－１ Tel:04-2991-0308　Fax:04-2991-0309　Mail:b29910308@city.tokorozawa.lg.jp